

近畿本部協賛団体出前講座（株島津製作所様）報告

1. 出前講座開催の経緯

近畿本部協賛団体の一つである、株式会社島津製作所様より、MOT(Management Of Technology) の視点から技術者を育成する事を目的とした講演会のご要望があり、今回の出前講座の開催となった。株式会社島津製作所様への出前講座は1 昨年12月の技術士制度の説明会に続いて2回目となり、技術者教育への関心の高さが窺える。

2. 出前講座の概要

島津製作所様のご担当者より、講演内容のご要望をお聞きして、準備を進めた。その結果、説明会を2部構成とし第1部をMOTの概要についての説明、第2部をケーススタディとして、受講者参加型とする事にした。第1部を北村友博技術士、第2部を竹田雅信技術士が担当する事となった。参加者は、島津製作所様の主要4事業部、他研究部門の主として入社4年目～10年目の若手技術系社員からマネージャークラスまでの幅広い層から20名が参加され、関心の高さが伺えた。

開催日； 平成30年4月16日(月) 13時～16時

開催場所； 島津製作所三条工場

今回は他の遠隔地事業所でも聴講したいという要望があり Skypeによる中継も実施された。講演会に先立ち、島津製作所の事務局より趣旨説明があり、その後山崎和人近畿本部協賛団体強化委員長の挨拶の後、講演会を開始した。



第1部として北村友博技術士より「技術経営概論(MOT) 利益を生み出す技術戦略の考え方」と題する約60分の講演があり、その後会議室のレイアウトを4つのグループが議論できる形に変更し、休憩を挟んだ後、第2部として竹田雅信技術士より技術士の総合技術監理部門の論文試験を題材として、与えられた課題について、経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理の5つの管理技術を中心に、トレードオフ、リスクマネジメント等を考慮しつつ、課題を解決する総監のアプローチに沿ってグループ討論を行い、内容を纏めるといふ「ケーススタディ」を実施した。

討論に先立ち、技術士総合技術監理部門の概要並びにMOTとの関連と討論の方法を説明して、5名ずつで構成された各グループ単位での議論を開始した。参加者の熱心な議論が続き、約100分後、各グループの代表者からまとめを発表してもらった。

技術士の総合技術監理の必須科目の論文試験は3.5時間をかけて解答する試験であるが、それを約100分で考えるとなると厳しかったが、さすがに日本を代表する分析計測機器、医用機器、産業機器等のトップメーカーの技術系社員であり、短時間ではあったが課題解決のための問題分析・検討・対策などが議論され、予想以上によくまとめられていたと思う。

業務時間中の社員教育の一環でという事から時間の制約があったが、初めての試みであり今後の参考となる部分が多かった。

(文責 竹田雅信 山崎和人)